

平成30（2018）年度の事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人海のくに・日本

1 事業報告

平成30年度は、前年度に引き続き、海洋事業・水産業・漁業地域の活性化方策を研究するとともに、子どもたちや教職者、保護者等一般市民を対象としたイベントを開催した。

特記事項として3つの活動を昨年度、新たに実施した。

一つめは昨年9月にブラジル・フロリアノポリスで開催された第67回国際捕鯨委員会 (IWC) に際し、当会が現地でサステイナブルユースをテーマにした会合を企画し、実施した件。国際漁業問題に詳しいゲスト講師のほか、アフリカから女性漁業者代表（ギニア、コートジボワール）をスピーカーに招き、ブラジル・アフリカ・日本を結ぶ国際シンポジウムとして開催した。この活動は自然資源保全協会、大日本水産会の他、この活動の意義を理解してくれた複数の協賛団体ならびに食品企業・団体の支援により実現できた。また外務省漁業室、外務省クリチバ総領事館、フロリアノポリスの日系人団体＝日本カタリーナ協会から絶大な協力をいただいたことは当会にとって大きな財産となった。

二つめは、鯨本皮研究会を立ち上げ具体的に推進した件。前年度から鯨本皮についての市場調査は始めていたが、今年度は研究会を立ち上げ、水産庁や築地市場、豊洲市場を訪問し、ヒアリングや現地調査を行った。また日本で流通しているすべての鯨種の本皮を集め、煮立てる時間でどのように変化するか、味はいはどうかなど、鯨種による違いを実証実験するワークショップを開催した。

三つめは、水産エコラベル (MEL、AEL) が本格的に動き出してきたことから、首都圏のデパ地下で水産エコラベル紹介キャンペーンを実施した件。MEL ジャパンが2007年に日本で始まってから11年。東京オリンピックの食材供給にエコラベル認証が必要との状況から、ようやく水産エコラベルについての認識が広まりつつあるが、現状は消費者にとどくまでのラインがつかっていないことから、水産資源回復管理支援会の認証水産物流通円滑実践調査事業委託を受けてデパ地下の魚売り場で水産エコラベルを紹介しつつ小売店や消費者の理解度を調査した。こうした実証実験は初めてであったことから多くの視察、取材があった。

・以下の事業を実施した。

1) 「子どもたちへの海洋教育」

あ) われは海の子2019

平成30年度も「われは海の子～離島を学ぼう」プロジェクトを推進した。7年目の平成30年度は、東京オリンピックをにらみ前年度と同じ伊豆諸島をテーマとし、そのなかで火山の島である「三宅島」を学んだ。古くから20年に一度の頻度で大きな火山爆発がある三宅島。住民は一時避難しつつも爆発が落ち着くと戻ってくるという、信じられないくらいに郷土愛の強い人々の島を通して、離島の魅力と課題をつぶさに取材するものとなった。また三宅島の魚がどのように首都圏の食卓に並ぶのかを取材する「豊洲市場取材班」も立ち上がり、充実した取材活動ならびに報告活動ができた。

い) 絵本づくりプロジェクト

上記事業を通じて、海と魚に関する絵本をつくり全国2万3000校の小学校図書館に配布するプロジェクトは平成30年度も調査・取材を重ねることはできたが、絵本づくりに着手できるところまでは至っていない。

う) 八丈島取材班

八丈島をテーマに環境学習を行う取り組みをW-Bridge に申請したが、残念ながら採択されず平成年度は実施できなかった。

2) 「海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業」

あ) クジラ食文化を広く伝える事業

クジラの食文化を若い世代に伝えるため、とくに学校栄養士にクジラをめぐる状況や鯨肉の扱い方や調理方法を伝える活動が3年目を迎えた。平成30年度は、学校栄養士対象は東京都江戸川区で開催。「栄養士の卵」対象としては東京家政大学で開催し、好評を博した。

また、この活動をさらに広げるため、東京の小学校での開催、東京の多様な層の消費者を対象に開催したところ、メディアで大きくとりあげられるとともに広範な参加を得ることとなり、大きな評判を呼んだ。

同じ趣旨から、東京・巣鴨で開催されてきた「巣鴨くじら祭り」の企画・実施の担当も3年目となり、地元商店街や地域の小学校の協力を得て「1000人で味わうクジラ汁」を実施したところ配布の2時間前から行列ができるほどの大人気となった。また新しい試みとして「くじら飯」の販売も実験的に行ったところ、約300ケのくじら飯はあっという間になくなる盛況ぶりであった。

「巣鴨くじら祭り」に併せて当会が企画した「くじら川柳募集」の3年目を迎えた。小学生から高齢者までそれぞれクジラをテーマに多くの川柳が寄せられ、クジラについて考える機会が広がった。また、表彰式には豊島区の[]も駆けつけてくださり、くじら川柳の受賞者を激励してくださった。他、お祭りを盛り上げる企画として落語家、大道芸人、ちんどんの出演者にも前年度同様にご参加いただいたところ、「巣鴨くじら祭りのおなじみの演者」と受け止められ、それぞれのファンも地元に来てきており「巣鴨くじら祭り」を大いに盛り上げていただいた。

さらに、上記の活動のベースとなる鯨肉の流通について、当会の独自取材として市場調査をつづけている。昨年度は「東京で鯨肉を売っているのは3店舗のみ」という従来伝えられてきた情報が大きく違っていることがわかった。そして、どこで、どのような鯨肉が、いくらで売っているかについての現場情報をレポートにまとめ水産庁、鯨研等関係者に報告し、今後の流通対策について提言した。今年度はその提言に基づき、市場調査をつづけている。

3) 「都市と漁村地域との間の交流の促進に関する事業」

あ) 浜のかあさんと語ろう会

ウーマンズフォーラム魚に協力して開催した。東日本大震災の被災地の浜から招くシリーズを2012年から続けており、昨年度につづいて福島県から女性漁業者と漁連幹部を招いて開催した。首都圏のイオンで「福島鮮魚便」という売場ができたことを紹介し、消費者にはなかなか伝わらない現地情報や郷土料理のおいしさを伝える場とした。

4) 「水産物の流通及び消費に関する事業」

あ) 水産エコラベルキャンペーン

水産資源回復管理支援会の認証水産物流通円滑実践調査事業委託を受けてデパ地下の魚売り場で水産エコラベルを紹介しつつ小売店や消費者の理解度を調査した。こうした実証実験は初めてであったことから多くの視察、取材があった。

い) いわし料理教室

ウーマンズフォーラム魚に協力して開催した。

5) 「漁村の活性化に関する事業」

あ) 西アフリカの女性漁業者を日本に招き研修活動を実施する事業

平成28年度に農水省の委託事業で調査・指導したコートジボワールの女性漁業者を対象に、日本に招いて技術指導とマーケティングを実地指導する計画を立てJICAの公募枠に応募したが、残念ながら不採択となり平成30年度は実施できなかった。

い) 西アフリカでサステイナブルな漁業の実施サポート活動

平成28年度にコートジボワールで実施した調査・指導活動を継続実施するため三井環境基金に申請したが、残念ながら不採択となり平成30年度は実施できなかった。

う) 西アフリカの女性漁業者支援活動

モロッコに西アフリカ22カ国の女性漁業者(RAFEP)が集まり開催しているワークショップは、今年度は平成30年6月と平成31年2月の開催であった。どちらも開催日程が直前に決まったことから当会のワークショップは開催せず、話し合いに参加した。6月には■■■■が出席し、9月開催のIWCブラジル総会並びに当会主催の国際シンポジウムへの派遣者について話し合った。

翌2月開催のワークショップには■■■■と■■■■が出席し、前年のIWC総会ならびに国際シンポジウムの報告を行ったほか、今後のRAFEPの方向性と具体的な活動計画について話し合った。

え) 農泊事業

農水省の「農泊」事業の公募に応募したが、残念ながら不採択となり平成30年度は実施できなかった。

お) 国産農水産物・食品への理解増進事業

前年度に農水省の委託事業として当会が受託し、全国の生産者や全国の加工団体の活動を支援した当該事業は農水省に対して5年間の報告義務があるため、全国7団体と連絡をとりながら農水省への報告に努めている。

一連の活動を、ホームページを通じて広く発信することにも努めた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

☆印は、年度当初予定にはなかった活動

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)実施予定日時 (B)当該事業の実施開催場所 (C)スタッフ人数	(D)受益対象者の範囲 (E)参加人数	収支報告書の事業費の金額 (単位：千円)
こどもたちへの海洋教育並びに水産業に対する啓蒙普及事業	1) 島国・日本の国境はすべて海上にある。東西南北の国境を学ぶことで、海とつながりが深い日本について考え発表する機会を創出	(A) 6月～2019年3月 (B) 都内の小学校・離島エリア (C) 10人	(D) 東京の小学生 (E) 1000人	3034
	2) 日本全国の漁業、漁村、魚食文化等について網羅した絵本シリーズを制作し、全国2万3000校の小学校図書館に配布するため、調査・取材活動を実施	(A) 6月～2019年3月 (B) 都内の小学校 (C) 10人	(D) 日本全国の小学生 (E) 700万人	100
	3) 東京都八丈島を学ぶことを通じて「離島と環境」を考える取組の実施。	(A) 7月～2019年6月 (B) 都内の小学校・八丈島 (C) 10人	(D) 東京の小学生 (E) 1000人	0 (W-BRIDGEの受託無し)
海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業 魚食を中心とした食育普及推進事業	4) - 1 クジラを学校給食メニューに採用してもらうため、学校栄養士を対象にした取り組みを実施した。 4) - 2 東京・巣鴨地区で「くじら祭り」を開催し、地域社会からクジラ食を伝える取組を実施した。 4) - 3 東京都内の小学校でクジラの授業とクジラ給食を実施した。 4) - 4 東京の一般消費者対象にクジラの授業と試食会を実施した。	栄養士向け (A) 7月～2019年3月 (B) 都内の小学校・公民館 (C) 10人 巣鴨 (A) 7月～2019年3月 (B) 東京・巣鴨 (C) 25人 小学生向け (A) 7月～2019年3月 (B) 都内の小学校 (C) 10人 一般消費者向け (A) 7月～2019年3月 (B) 都内の公民館 (C) 10人	栄養士向け (D) 東京の栄養士、大学生 (E) 300人 巣鴨 (D) 巣鴨エリアの生活者 (E) 6000人 小学生向け (D) 都内の小学生 (E) 500人 一般消費者 (D) 都内の一般消費者 (E) 100人	7648 (日本鯨類研究所) 2000 (賛助会費)

	4) - 5 鯨本皮研究会を開催し、本皮の流通状況や、日本に出回っている6鯨種について食品科学実験を行った。	鯨本皮研究会 (A) 7月～2019年3月 (B) 都内の公民館 (C) 15人	一般消費者 (D) 都内の一般消費者 (E) 1000万人	
海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業 魚食を中心とした食育普及推進事業	☆5) ブラジル・フロリアノポリスでサステイナブル・ユースをテーマにしたシンポジウムの開催した。	(A) 8月～9月 (B) ブラジル・フロリアノポリス (C) 10人	(D) ブラジル・アフリカ・日本の市民 (E) 1000人	3862
都市と漁村地域との間の交流の促進に関する事業	6) 浜のかあさんと語ろう会。漁村地域の女性漁業者を東京に招く事業を通して漁業者と消費者との情報交換、理解増進を図る事業	ウーマンズフォーラム魚に協力		100
水産物の流通及び消費に関する事業	☆7) 水産エコラベルの紹介キャンペーンを実施した。	(A) 10月～3月 (B) 首都圏のデパ地下の魚売り場 (C) 10人	(D) 日本の漁業者、流通、消費者 (E) 1000万人	800 (水産資源回復管理支援会)
	☆8) いわし料理教室。いわしをテーマにした料理教室。青魚がいかに健康に良いかを具体的に考え料理し食べる活動	ウーマンズフォーラム魚に協力		50
漁村の活性化に関する事業	9) 西アフリカの女性漁業者を日本に招き研修活動を実施する活動	(A) 9月～2018年3月 (B) 西アフリカのコートジボアール (C) 10人	(D) コートジボワールの女性漁業者 (E) 50人	0 (JICAの受託無し)
	10) 西アフリカでサステイナブルな漁業の実施をサポートする活動	(A) 9月～2018年3月 (B) 西アフリカのコートジボアール (C) 10人	(D) コートジボワールの水産関係者 (E) 700人	0 (三井環境基金の受託無し)
漁村の活性化に関する事業	11) 西アフリカの女性漁業者支援活動 モロッコに西アフリカ22カ国の女性漁業者が集まり開催したワークショップにおいて話し合いに参加し9月のIWC総会ならびにシンポジウム派遣者の選任を行った。 また翌年には、IWC総会の報告と活動方針や具体的な活動内容について話し	(A) 2018年6月 (B) モロッコ (C) 10人 (A) 2019年2月 (B) モロッコ (C) 10人	(D) 西アフリカ22カ国の水産関係者 (E) 100人	300

	合った。			
漁村の活性化に関する事業	12) 農水省が進める「農泊」をテーマに日本各地でシンポジウムを開催する	(A) 7月～2018年3月 (B) 日本各地8拠点 (C) 10人	(D) 日本の農泊関係者、観光業界、消費者、子ども (E) 1万人	0 (農水省の受託無し)
	13) 国産農水産物・食品への理解増進事業。 2017(平成29)年度に実施事業。5年間の報告義務があり、全国7事業者を指導しつつ農水省に報告している。			20

(2) その他の事業

平成30年度は実施しなかった。

平成30年度 活動計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 海のくに・日本

(単位：円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1. 会費収入			
会費収入	131,270		
寄付(個人・企業)	5,034,000	5,165,270	
2. 事業収入			
日本鯨類研究所 業務委託	8,210,640		
水産エコーベル 業務委託	800,000		
ブラジルワークショップ	3,862,166		
ワック出版対談謝礼	30,000		
	0	12,902,806	
3. その他収益			
経常収益計			18,068,076
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
雑給	903,771		
人件費計	903,771		
(2) その他経費			
会場費	2,063,698		
委託費	232,040		
印刷製本費	552,298		
消耗品費	1,484,493		
交通費	2,342,697		
調査分析費	0		
謝金	4,469,955		
通信費	21,906		
雑費	61,540		
その他経費計	11,228,627		
事業費計		12,132,398	
2. 管理費			
(1) 人件費			
雑給	400,000		
人件費計	400,000		
(2) その他経費			
借料・会場費	2,654,477		
事務消耗品費	447,093		
印刷製本費	29,742		
調査分析費	1,760		
雑費	4,828		
管理費	6,000		
交通費	716,380		
通信費	285,712		
その他経費計	4,145,992		
管理費計		4,545,992	
経常費用計			16,678,390
当期経常増減額			1,389,686
III. 経常外収益			
経常外収益計			0
IV. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			1,389,686
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			1,389,686
前期繰越正味財産額			▲ 4,375,319
次期繰越正味財産額			▲ 2,985,633

平成30年度 活動計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目	金額		
V. その他の事業			
1.収入		0	
2.支出		0	
			0

平成30年度 貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目・摘要	金額		
I. 資産の部			
1.流動資産			
現金預金	1,707		
未収入金	0		
流動資産合計		1,707	
2.固定資産			
(1)有形固定資産	0		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,707
II. 負債の部			
1.流動負債			
短期借入金	767,226		
未払金	2,220,114		
流動負債合計		2,987,340	
2.固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			2,987,340
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		▲ 4,375,319	
当期正味財産増減額		1,389,686	
正味財産合計			▲ 2,985,633
負債及び正味財産合計			1,707

平成30年度 財産目録

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目・摘要	金額		
I. 資産の部			
1.流動資産			
現金預金			
東京三菱UFJ銀行普通預金	1,707		
未収入金			
農水省	0		
流動資産合計		1,707	
2.固定資産			
(1)有形固定資産	0		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,707
II. 負債の部			
1.流動負債			
短期借入金			
	767,226		
未払金			
	2,220,114		
流動負債合計		2,987,340	
2.固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			2,987,340
正味財産			▲ 2,985,633

平成30年度 年間役員名簿

平成30年 4月 1日から 平成31年 3月31日まで

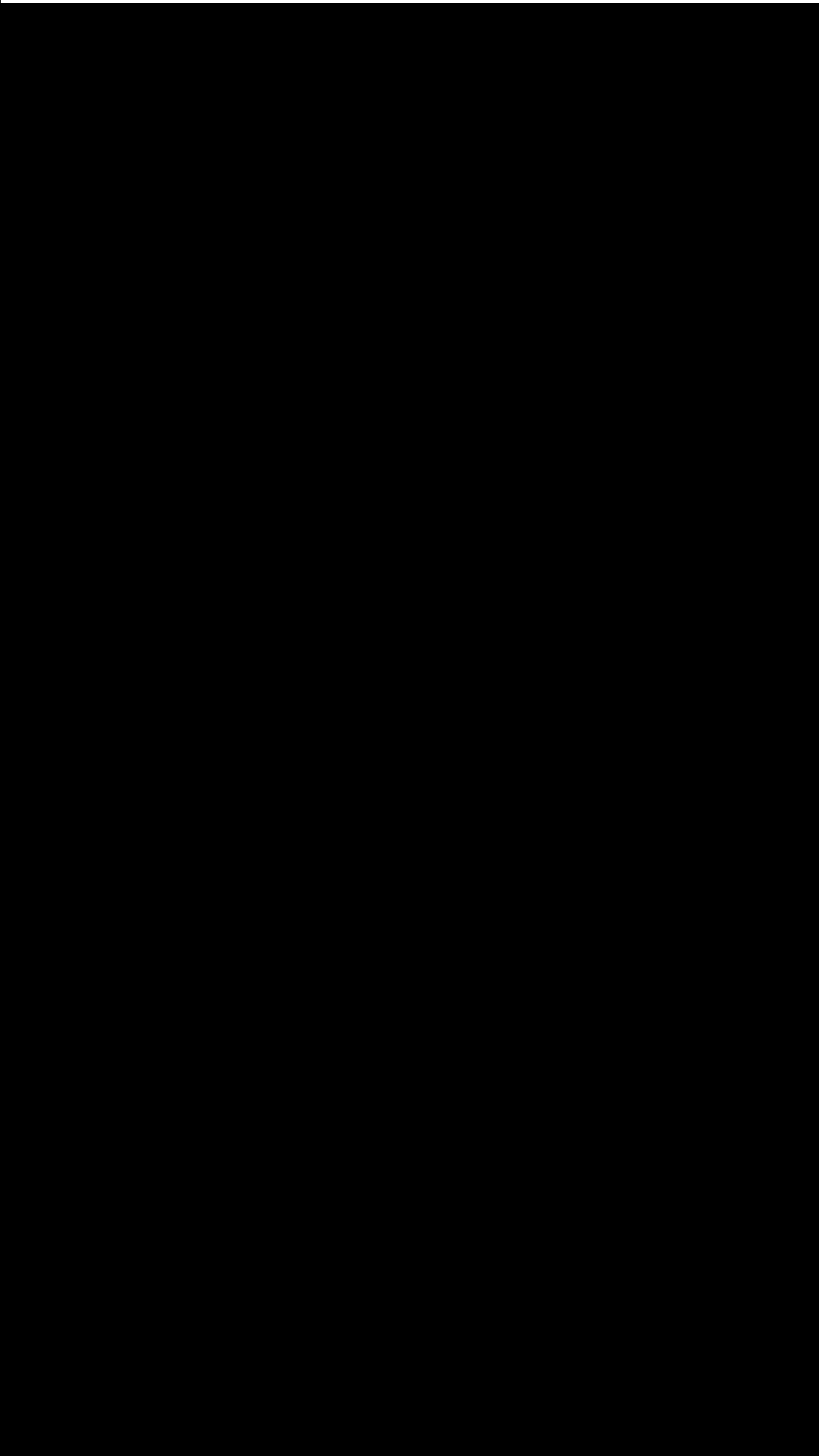
特定非営利活動法人 海のくに・日本

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	しらいし ゆりこ 白石ユリ子		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
副理事長	ほんまち えこ 本間千枝子		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
理事	ひぐち えいじ 樋口 栄治		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
理事	やまもと とおる 山本 徹		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
理事	きたかわ こ 北川みわ子		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
理事	さとうあきこ 佐藤安紀子		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
理事	まかべ はつこ 眞壁 初子		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
監事	おだ やすお 小田 康夫		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし
監事	なかす いさお 中須 勇雄		平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	報酬なし

社員のうち10人以上の者の名簿

平成31年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本

	氏 名	住 所 又 は 居 所
1	白石ユリ子	
2	本間千枝子	
3	樋口 栄治	
4	山本 徹	
5	北川みわ子	
6	佐藤安紀子	
7	眞壁 初子	
8	小田 康夫	
9	中須 勇雄	
10	大軒 得志	
11	高木 義弘	
12	谷川 尚哉	